

【例題】高卒程度-農業

果樹の整枝・せん定について正しいものはどれか。

1. 整枝・せん定の目的の一つは、毎年安定した収量を得るため、枝葉の成長と結実量との均衡を図ることである。
2. せん定の程度は、1本の枝では切り取る部分が高いほど、1本の樹では切り取る総量が多いほど弱せん定といい、栄養成長がさかんになる。
3. 立木仕立ての整枝法である主幹形は、主幹を短く 60～90cm とし、主枝を 2～4 本斜めに成長させる。モモ、ウメ、スモモなどで採用されている。
4. 立木仕立ての整枝法である開心自然形は、主幹が中央にまっすぐ立っている樹形で、リンゴ、ナシ、カキ、クリなどを放任するとこのような樹形になる。
5. 主枝、亜主枝、側枝の力関係は、主幹→主枝→亜主枝→側枝の順に強くなるようにせん定することが重要である。

(正答) 1

【例題】高卒程度-農業

一二年生草花の栽培についての記述の内、正しいものはどれか。

1. ストックは、主に3～4月頃は種され、高温長日により花芽分化し、夏から秋に開花する。
10℃以下の低温では生育しない。
2. ヒマワリは、主に秋から冬にかけては種され、低温短日で花芽分化し翌春開花する。
3. トルコギキョウは、早春に定植すると6～7月頃自然開花する。苗が高温に遭遇するとロゼット化する性質がある。
4. デルフィニウムは、主に春には種され、高温条件により生育が促進し、その後の短日条件により花芽分化し初冬に開花する。
5. キンギョソウは、主に秋には種され、5℃以下の低温に遭遇すると花芽分化し開花する。
寒さに強く0℃以上あれば生育可能である。

(正答) 3